

平成26年度事業報告書

公益社団法人兵庫みどり公社

1 借受・転貸状況

単位:ha

| | 単年度 | 累計(ストック) |
|-------------------|--------|----------|
| 借受面積(①) | 507.35 | 507.35 |
| | 407.94 | 407.94 |
| うち非担い手から担い手への転貸面積 | 61.12 | 61.12 |
| 作業委託で管理している面積 | 0.00 | 0.00 |
| 条件整備中の面積 | 0.00 | 0.00 |
| ②/① | 80.4% | 80.4% |

2 転貸先の状況(単年度)

単位:経営体、ha

| 転貸先 | 経営体数 | 転貸面積 |
|----------------------|------|--------|
| (1)地域内の農業者 | 45 | 407.94 |
| ①認定農業者 | 20 | 301.76 |
| うち個人 | 4 | 7.09 |
| うち法人 | 16 | 294.67 |
| うち企業 | 1 | 0.72 |
| ②認定新規就農者 | 1 | 0.32 |
| ③基本構想水準到達者 | 3 | 21.39 |
| ⑤今後育成すべき農業者 | 18 | 19.46 |
| ⑥認定農業者等以外の農外から参入した企業 | 1 | 0.35 |
| ⑦その他 | 2 | 64.66 |
| (2)地域外からの参入者 | 0 | 0.00 |
| うち法人 | 0 | 0.00 |
| うち企業 | 0 | 0.00 |
| 新規参入 | 5 | 2.08 |
| ①個人 | 4 | 1.74 |
| ②法人 | 1 | 0.34 |
| うち企業 | 1 | 0.35 |
| (1)+(2)の合計 | 45 | 407.94 |

単位:ha、団地

| 転貸を受けた者の農地の状況 | 転貸前 | 転貸後 |
|---------------------|-------|-------|
| 平均経営面積 | 12.96 | 15.32 |
| 平均団地(連続して作業ができるほ場)数 | 8.8 | 10.1 |
| 1団地の平均面積 | 1.48 | 1.51 |

3 担い手への集積・集約化の状況

| | 機構設立前 | 最新時点 |
|-------------|--------|--------|
| 全耕地面積(注)(①) | 75,800 | 75,400 |
| 担い手の利用面積(②) | 14,311 | 14,729 |
| ②/① | 18.88% | 19.53% |

4 市町村別(又は細分化された地域別)の借受・転貸状況及び担い手への集積・集約化の状況別表のとおり

5 経費等の状況(単年度)

単位:千円

| | |
|------------------------|--------|
| 差引賃料支払 | 746 |
| 賃料支払 | 2,512 |
| 賃料収入 | 1,766 |
| 管理・保全費支払 | 0 |
| 条件整備費支払 (土地改良区への支払) | 0 |
| 運営費支払 | 75,510 |
| 業務委託支払 | 16,696 |
| 総合計 | 92,952 |
| 単年度借入面積1ha当たりの単価 | 183 |
| 累計借入面積1ha当たりの単価 | 183 |

| | |
|---------|---|
| 条件整備費借入 | 0 |
| 新規借入 | 0 |
| 返済 | 0 |
| 借入残額 | 0 |

6 優良事例

(1)効率的・効果的に進んでいる市町村・地域の例とその要因

別紙のとおり

(2)機構自身の創意工夫

別紙のとおり

(別表)

| 市町村 (又は細分化) | 機構 借受面積 (ストック) ① | 機構 転貸面積 (ストック) ② | ②/① | 耕地 面積 ③ | 担い手 利用面積 ④ | ④/③ |
|----------------|---------------------------|---------------------------|--------|---------------|------------------|-------|
| 神戸市 | 0.00 | 0.00 | 0.0% | 4,460 | 887.2 | 19.9% |
| 宝塚市 | 0.28 | 0.28 | 100.0% | 393 | 37.9 | 9.6% |
| 三田市 | 0.00 | 0.00 | 0.0% | 2,070 | 381.1 | 18.4% |
| 猪名川町 | 0.00 | 0.00 | 0.0% | 436 | 37.3 | 8.6% |
| 明石市 | 0.00 | 0.00 | 0.0% | 465 | 84.0 | 18.1% |
| 加古川市 | 24.83 | 13.67 | 55.1% | 2,450 | 509.4 | 20.8% |
| 高砂市 | 0.00 | 0.00 | 0.0% | 278 | 2.9 | 1.0% |
| 稲美町 | 5.57 | 0.00 | 0.0% | 1,610 | 337.2 | 20.9% |
| 西脇市 | 0.00 | 0.00 | 0.0% | 1,150 | 206.8 | 18.0% |
| 三木市 | 0.00 | 0.00 | 0.0% | 3,120 | 495.4 | 15.9% |
| 小野市 | 35.00 | 35.00 | 100.0% | 2,350 | 455.5 | 19.4% |
| 加西市 | 118.97 | 92.10 | 77.4% | 3,700 | 913.5 | 24.7% |
| 加東市 | 6.93 | 6.93 | 100.0% | 2,890 | 348.2 | 12.0% |
| 多可町 | 22.39 | 22.39 | 100.0% | 1,430 | 254.6 | 17.8% |
| 姫路市 | 21.10 | 18.15 | 86.0% | 4,810 | 614.3 | 12.8% |
| 神河町 | 13.29 | 13.29 | 100.0% | 745 | 273.0 | 36.6% |
| 市川町 | 41.51 | 41.51 | 100.0% | 900 | 384.8 | 42.8% |
| 福崎町 | 10.05 | 10.05 | 100.0% | 742 | 208.3 | 28.1% |
| 相生市 | 0.00 | 0.00 | 0.0% | 498 | 155.5 | 31.2% |
| 赤穂市 | 0.00 | 0.00 | 0.0% | 868 | 313.8 | 36.2% |
| たつの市 | 71.55 | 36.08 | 50.4% | 2,970 | 613.2 | 20.6% |
| 宍粟市 | 0.00 | 0.00 | 0.0% | 2,350 | 276.0 | 11.7% |
| 太子町 | 0.00 | 0.00 | 0.0% | 469 | 59.2 | 12.6% |
| 上郡町 | 0.66 | 0.66 | 100.0% | 919 | 435.7 | 47.4% |
| 佐用町 | 60.36 | 60.36 | 100.0% | 1,950 | 333.2 | 17.1% |
| 豊岡市 | 24.38 | 24.38 | 100.0% | 5,110 | 1,150.3 | 22.5% |
| 香美町 | 0.00 | 0.00 | 0.0% | 1,580 | 121.5 | 7.7% |
| 新温泉町 | 0.00 | 0.00 | 0.0% | 1,190 | 171.8 | 14.4% |
| 養父市 | 0.00 | 0.00 | 0.0% | 1,540 | 136.9 | 8.9% |
| 朝来市 | 23.16 | 23.16 | 100.0% | 1,770 | 659.1 | 37.2% |
| 丹波市 | 17.39 | 0.00 | 0.0% | 5,690 | 631.8 | 11.1% |
| 篠山市 | 0.00 | 0.00 | 0.0% | 4,400 | 610.2 | 13.9% |
| 洲本市 | 0.71 | 0.71 | 100.0% | 2,520 | 624.6 | 24.8% |
| 南あわじ市 | 1.52 | 1.52 | 100.0% | 3,800 | 1,392.0 | 36.6% |
| 淡路市 | 7.70 | 7.70 | 100.0% | 3,250 | 613.1 | 18.9% |
| 県計 | 507.35 | 407.94 | 80.4% | 74,873 | 14,729.3 | 19.7% |

6 優良事例

(1) 効率的・効果的に進んでいる市町・地域の例とその要因

別添1～2のとおり。

(2) 機構自身の創意工夫

① 県庁組織・職員を積極的に活用した執行体制

公社に担当役員ポスト（副理事長）を新設し県から職員を派遣したほか、県（本庁）担当課長以下、職員を公社の併任職員に位置付けた。併せて、県出先事務所（10カ所）を農地管理事務所と位置付け、所長以下、職員を公社の併任職員と位置付け、公社の常勤嘱託員を「農地集約推進員」として配置（10名）。

② 全国に先駆けて借受希望者を募集

事業効果の早期発現のため、6月及び12月の定期募集に加え、機構に指定された4月1日から借受希望者の4月募集を開始。酒造会社や米卸会社など食関連企業からも多くの借受希望が寄せられた。

③ 育成モデル地域の設定

農地利用の話し合いが進んでいる地域を「育成モデル地域」（55地域）と位置付け、集落営農組織や大規模農家への機構による集積・集約化を推進するとともに、「育成モデル地域」を成功事例として県下各地域の集積・集約を促進した。

④ 農地の出し手確保のための積極的なPR

神戸新聞県域版に、兵庫県知事から農地の出し手へのメッセージや事業制度の紹介広告を掲載したほか、「未来につなごうあなたの農地！兵庫県農地中間管理事業推進シンポジウム」を開催（県下各地から390名参加）し、農地の出し手確保のための積極的なPRを実施した。

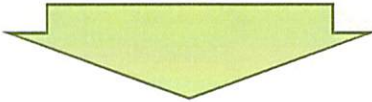
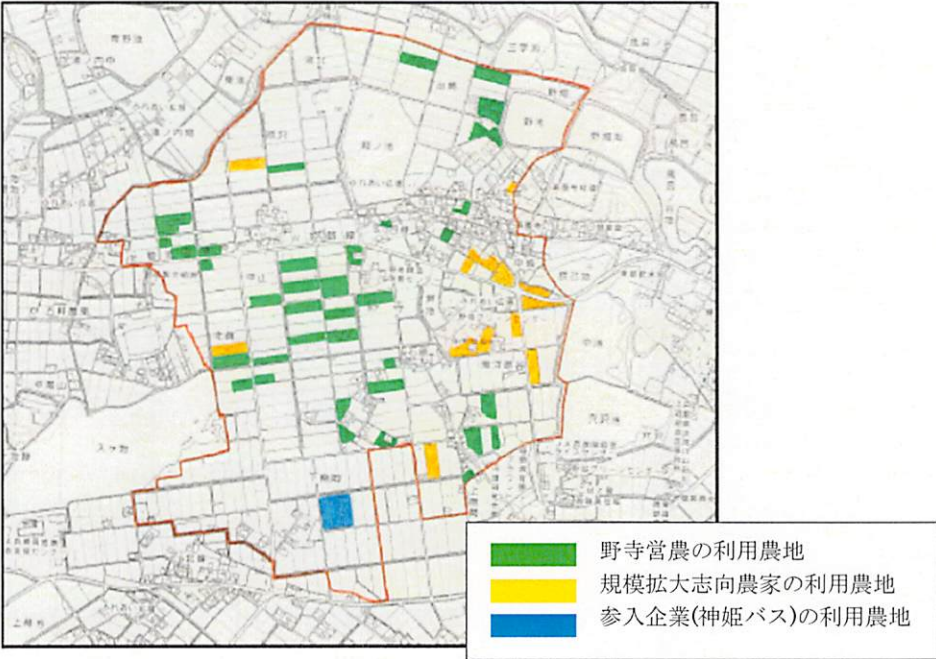
農地の集積・集約化の取組事例

【稲美町 ^の野寺地区】

| | |
|---------|---|
| 地区の概況 | <p>稲美町東部の印南野台地に位置し、ため池を水源とし、水田において、水稻と大麦、野菜を生産する地域。水利の改善と生産性の向上のため、県下でもいち早くほ場整備された母里地区の中にあり、野菜栽培中心の都市近郊型農業が行われている。</p> <p>昭和55年には機会のオペレーター部会が、平成12年には営農組合が設立されるなど、早い時期から「地域の農地は地元で守る」という意識が高い地区である。</p> <p><農地面積> 51.1ha <農家戸数> 73戸</p> |
| きっかけ | <p>【担い手間の農地調整】</p> <p>農業の維持・発展を図るため、営農組合の法人化をきっかけに、作業性・収益性の向上を図るため、農地の集積・集約が課題であったが、農事組合法人野寺営農が機構から農地中間管理事業の制度と事業活用の提案を受け、また、新規就農者や企業の参入希望もあったことから、人・農地プランの見直しを含めて、それぞれの経営方針を踏まえた農地利用図等について、地域で話し合いを進め、合意形成を図った。</p> <p><人・農地プラン> 新規：平成24年9月 見直し：平成27年2月</p> |
| 貸付先 | <p>農事組合法人野寺営農（設立：平成26年5月） 規模拡大志向農家 1名</p> |
| 経営面積 | <p>農事組合法人野寺営農 22.4ha → 22.4ha（集約化） 規模拡大志向農家 3.7ha → 3.7ha（集約化）</p> |
| 貸付面積 | 13.5ha（平成27年6月） |
| 工夫・ノウハウ | <p>【地域の信念と熱意】</p> <p>地域の話し合いの中で「地域の農地は地元で守る」ことで意思統一が図られ、地域の農業者が新たに担い手として加わった。</p> <p>(1) 営農組合の法人化による作業性・収益性の向上 (2) 営農組合、参入企業、規模拡大志向農家とのエリア分け</p> |
| 成果 | <p>(1) 法人の貸借期間の長期化による経営安定が図られた。 (2) 集落営農組織と担い手が共存できる土地利用が可能となった。 (3) 参入企業(神姫バス)が営農を継続し、発展できる農地条件が整えられた。</p> |

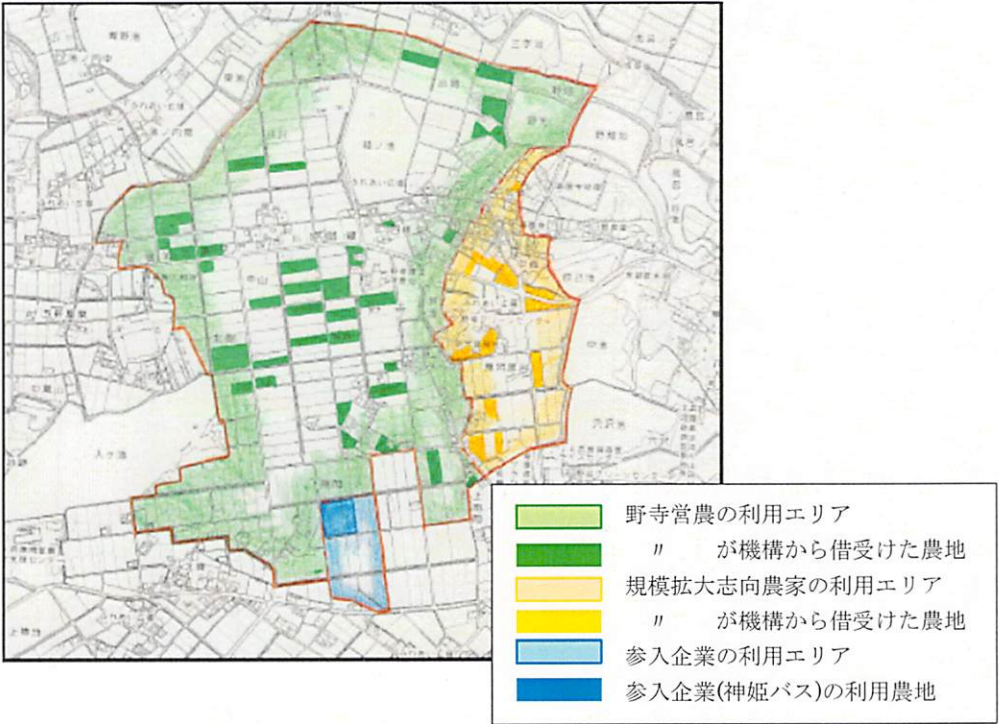
活用前

野寺営農、規模拡大志向農家が混在している。



活用後

野寺営農、規模拡大志向農家、参入企業における農地利用のエリア分けができた。



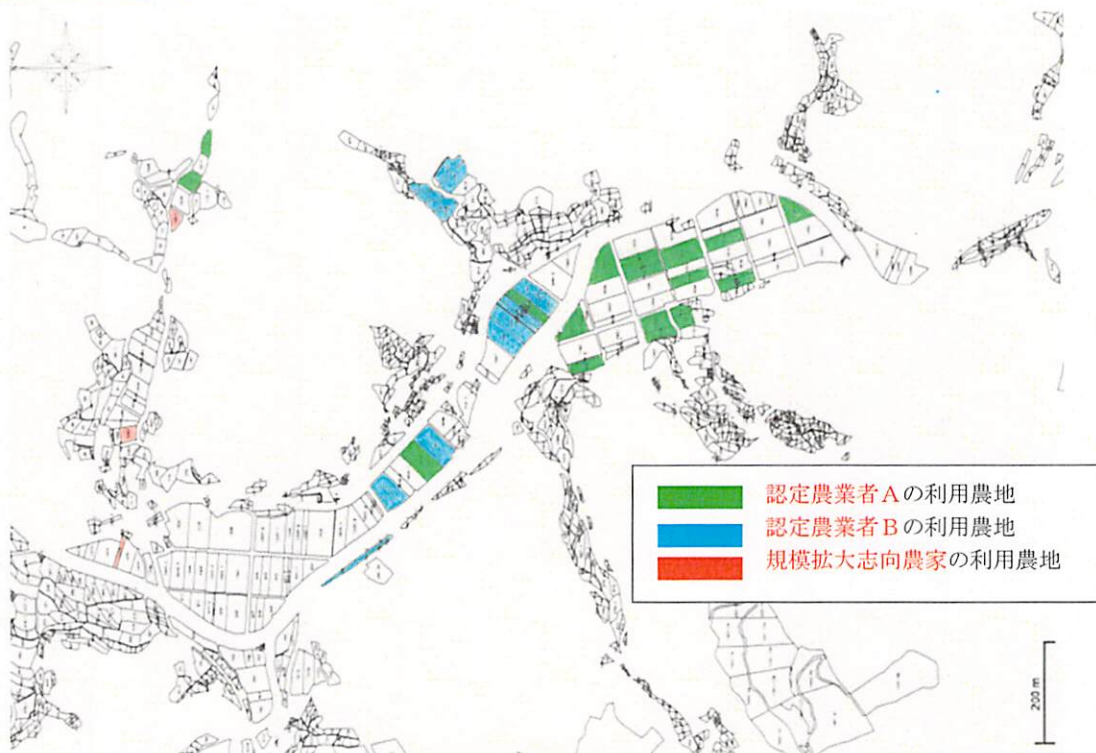
農地の集積・集約化の取組事例

【佐用町 ^{ふくさわ}福澤地区】

| | |
|---------|---|
| 地区の概況 | <p>佐用町の中央部に位置する中山間地域で、水稻を主体とした農業生産を行っている。地区内住民のうち 65 歳以上の割合が 34.3%と高齢化が著しく、今後、地域と農業を維持していくための担い手の育成が求められている。</p> <p>同地区のほ場整備は平成 5 年に完了している。一部で棚田を活用した果樹園があり、都市住民との交流も行われている。</p> <p><農地面積> 40ha <農家戸数> 52戸</p> |
| きっかけ | <p>【地域の問題意識】</p> <p>もともと集落営農組織による農作業受託や担い手への農地の集積・集約化に積極的な地区であったが、平成 24 年度以降、人・農地プランの作成による担い手への農地の集積・集約化の必要性が増し、農地中間管理事業の創設等により、農地の集積・集約化の機運が高まった。</p> <p>このような中で、平成 26 年 4 月に人・農地プランを作成し、農地中間管理事業の活用にあたって、見直しを行った。</p> <p><人・農地プラン> 新規：平成 26 年 4 月 見直し：平成 26 年 11 月</p> |
| 貸付先 | 認定農業者 2 名、規模拡大志向農家 1 名 |
| 経営面積 | <p>認定農業者 A 3.10ha → 4.17ha</p> <p>認定農業者 B 2.36ha → 2.48ha</p> <p>規模拡大志向農家 0.20ha → 3.92ha</p> |
| 貸付面積 | 10.57ha (平成 27 年 5 月) |
| 工夫・ノウハウ | <p>【町、地域リーダーによる牽引】</p> <p>(1) 町の指導により、集落営農の組織化や地域農業のあり方について、営農組合を中心とする地域農業への取り組みを進めた。</p> <p>(2) 人・農地プラン作成にあたり、中心経営体の位置づけや担い手毎の集積・集約エリアの区分けについて話し合いを行った。</p> <p>(3) プラン作成後も、農地の集積・集約化にあたり、再度アンケート調査を実施し、集積対象から除外できる農地を判別するなど、集落内での検討を重ねた。</p> |
| 成果 | <p>(1) 人・農地プラン策定・見直しの話し合いにより、集落における農業の担い手のあり方が明確になった。(集落営農による農地の利用調整機能は維持しつつ、当面は個別経営体への農地集積・集約を行う)</p> <p>(2) 人・農地プランにより中長期ビジョンができたことで、継続した話し合いが行われ、貸付希望農地を担い手に集積できた。</p> <p>(3) 集落内の担い手の農地集積率が向上し (25%→45%)、その後もさらなる集積が図られている。</p> <p>(4) 当地区がモデルとしての展示効果が波及し、隣接集落で人・農地プランの作成進展などに結びついている。</p> |

活用前

農家がそれぞれ農地を分散して利用。



活用後

認定農業者、規模拡大志向農家のエリア分けと規模拡大が図られた。

